再来患者の平均診療間隔は 2017→2020 年に 11.6 日から 22.2 日へ 1.914 倍になったが、数える日数の上限が 30 日から 98 日に変わった年である——2023 年の分布を 30 日の窓で数え直すと 11.77 日（区分の端で挟んで 8.86〜14.68 日）で、2017 年の 11.6 日と区別がつかない [M087]

公表の 2023 ÷ 2017 ＝ 窓の分 × 窓の中の動き ── 分けるのは、数える窓が変わったか、間隔そのものが伸びたか

山岸 勇輝（Yuuki YAMAGISHI）／ Independent Researcher
ORCID 0009-0006-8587-3450
2026 年 9 月 ／ CC BY 4.0

要旨

厚生労働省の患者調査の第6表（再来患者の平均診療間隔の年次推移・1996〜2023 年の 10 回）と第65表（2023 年の前回診療からの診療間隔日数の分布）で、平均診療間隔が 2017 年から 2020 年に倍になったことが、数える窓の変更と間隔そのものの伸びにどう分かれるかを見た。新しい数学定理も新しい法則も主張しない。

第一に、第6表の注に、2020 年から平均診療間隔の算出で、前回診療日から調査日までの日数の上限を 30 日（31 日以上を除外）から 98 日（99 日以上を除外）に変えたと書かれている。全施設の総数は 2017 年 11.6 日 → 2020 年 22.2 日（1.914 倍）で、ほかのどの回の変わり目（最大 1.109 倍）より大きい（第3・4節）。

第二に、ここが本稿の芯である。**2023 年の分布（7 日幅の区分）を区分の真ん中の日数で平均すると、98 日の窓で 23.67 日（公表の 24.4 日の 0.970）、30 日の窓で 11.77 日（区分の端で挟んで 8.86〜14.68 日）になる。2017 年の公表値 11.6 日はこの幅の中にあり、30 日の窓どうしで比べた 2023 ÷ 2017 は 1.015 である。** 2023 年の再来のうち 0.319 は、古い窓では数えられなかった 31 日以上の間隔である（第5節）。

第三に、**傷病の 15 の章すべてで、2017 年の値は 2023 年を 30 日の窓で数え直した幅の中にあり、公表の 2023 ÷ 2017 を分けると、窓の分（1.561〜2.934）がどの章でも窓の中の動き（0.883〜1.196）より大きい**（第6節）。

第四に、**窓の分がいちばん大きいのは眼（2.934）、いちばん小さいのは損傷・中毒（1.561）である。** はじめ「2023 ÷ 2017 の大きさは 31 日以上の割合でほぼ決まる」と置いたが、実測の順位の相関は 0.271 で、公表の 2023 ÷ 2017 がいちばん大きいのは眼ではなく腎尿路生殖器系（2.845）だった（第6節）。

第五に、**同じ 30 日の窓のあいだ（1996 → 2017 年）には、全施設の総数は 9.1 日から 11.6 日（1.275 倍）へ少しずつ伸びた。** 伸びが大きいのは耳（1.614 倍）、腎尿路生殖器系は 0.780 倍に短くなった（第4節）。

第六に、分けるのは**数える窓が変わったか、間隔そのものが伸びたか**である。「通院の間隔が倍に延びた」は、表の上では、31 日以上の再来を数えに入れた分と、同じ窓の中での動きの二つを一つの数で呼んでいる。

射程注記：本稿は新しい数学定理も新しい法則も主張しない——平均診療間隔と間隔日数の分布は公開の表にあり、本稿は分布を古い窓で数え直し、公表の比を二つに分けただけである。**本稿は公開の集計データの数の形を述べる構造的解釈であり、医学的な助言・診断・治療の推奨ではない。著者は医師ではない。個人の健康に関する判断は医師・医療機関に相談すること。査読を経ていないプレプリントである。 通院の間隔の長い短いの良し悪し、処方の日数や医療制度の評価、どのくらいの間隔で通うべきかには立ち入らない。** 数え直しは 7 日幅の区分の真ん中の日数による近似で、98 日の窓では公表値より 3 % ほど低く出た。30 日の窓の値には区分の端で挟んだ幅をつけた。分布の表は 2023 年にしか無く、2017 年・2020 年は数え直せない。平均診療間隔は、調査日に来た再来患者について前回診療からの日数を平均したもので、一人の患者が通う間隔の平均とは違う。窓の中の動きが何によるかは、この表では分けられない。感染症及び寄生虫症・精神及び行動の障害（本シリーズで保留している分野）と特殊目的用コードは、章ごとに並べていない。**データについて**：患者調査（厚生労働省）は e-Stat から取り、政府標準利用規約（第2.0版）に従って使い、本稿の数え直しと比は、これを加工して作成した。本稿が加えたこと：**2023 年の診療間隔日数の分布を古い 30 日の窓で数え直し、2020 年の「倍」が数える窓の変更と区別できないことを示したこと、公表の 2023 ÷ 2017 を窓の分と窓の中の動きに分け、15 の章すべてで窓の分のほうが大きいことを示したこと。**

---

1. 記号と問い

- **平均診療間隔**：調査日に来た再来患者の、前回診療日から調査日までの日数の平均（公表値）。
- **窓**：平均に入れる日数の上限。2017 年までは 30 日（31 日以上を除外）、2020 年からは 98 日（99 日以上を除外）。
- **数え直し**：第65表の区分ごとの推計再来外来患者数に区分の真ん中の日数を掛けて平均したもの。窓が区分の途中にかかるときは、その区分の人数を日数の割合で切る。区分の下

端・上端で同じ計算をしたものを幅として出す。

- **窓の分**：公表の 2023 年 ÷ 2023 年を 30 日の窓で数え直した値（同じ年の同じ人たちで、窓だけが違う）。
- **窓の中の動き**：2023 年を 30 日の窓で数え直した値 ÷ 公表の 2017 年（窓をそろえた年どうし）。

問い：平均診療間隔が 2017 年から 2020 年に倍になったのは、間隔そのものが伸びたからか、数える窓が変わったからか。

観察 1.1：M009 は、「平均在院日数」が退院していく人たちの平均で、ある日の入院患者の平均とは違うことを示した。平均診療間隔も、どの人をどの範囲で数えるかで決まる数である。

---

2. 下見と設計

正直に書く：設計は表を見てから決めた。

	内容
表	患者調査 令和5年 全国編 第6表（再来患者の平均診療間隔の年次推移・1996〜2023 年）・第65表（2023 年・前回診療からの診療間隔日数 × 傷病大分類 × 病院－一般診療所）
下見で気づいたこと	第6表の注（7）に、2020 年から数える日数の上限が 30 日から 98 日に変わったと書かれていた。第65表の区分は 7 日幅で、30 日は 29〜35 日の区分の中にある。2017 年・2020 年の一覧も読み、間隔日数の分布の表は 2023 年にしか無いことを確かめた
下見で気づいたこと（2）	はじめ「2023 ÷ 2017 の大きさは 31 日以上の割合でほぼ決まる（順位の相関 0.9 超・いちばん大きいのは眼）」と置いて落ちた。そこで公表の比を窓の分と窓の中の動きに分けた
比べ方	年次、2023 年の分布を 98 日・30 日（と 28 日・35 日）の窓で数え直した値、章ごとの窓の分と窓の中の動き

---

3. データと確かめ

計算 3.1 取得したファイル 2 本を SHA-256 で固定し、次を確かめた。

- 第6表：10 回の年の列、全施設・病院・一般診療所・歯科診療所の塊と総数の行がある。注（7）に「平成29年までは30日（31日以上を除外）であったが、令和 2 年からは98日（99日以上を除外）で算出」とある。
- 第65表：令和5年10月、単位は千人。区分は 1〜7 日から 7 日幅で 274〜280 日、281 日以上、不詳。区分の和 ＋ 不詳 − 総数は最大 0.6 千人（丸め）。総数の塊には歯科診療所を含む（表の注）。

---

4. 年次

計算 4.1 再来患者の平均診療間隔（全施設・総数・日）

年	平均診療間隔	前の回からの伸び	窓
1996	9.1		30 日
2002	9.5	1.044	30 日
2008	10.0	1.053	30 日
2014	11.2	1.109	30 日
2017	11.6	1.036	30 日
2020	22.2	1.914	98 日
2023	24.4	1.099	98 日

観察 4.2：2017 → 2020 年の 1.914 倍は、ほかのどの回の変わり目（最大 1.109 倍）より大きく、窓が 30 日から 98 日に変わった回にあたる。 病院は 12.4 → 27.7 日（2.234 倍）、一般診療所は 11.8 → 21.7 日（1.839 倍）。同じ 30 日の窓のあいだ（1996 → 2017 年）は 9.1 日から 11.6 日へ 1.275 倍だった。章ごとでは耳（1.614 倍）・呼吸器系（1.444 倍）・筋骨格系（1.439 倍）が大きく、新生物（0.983 倍）と腎尿路生殖器系（0.780 倍）は短くなった。

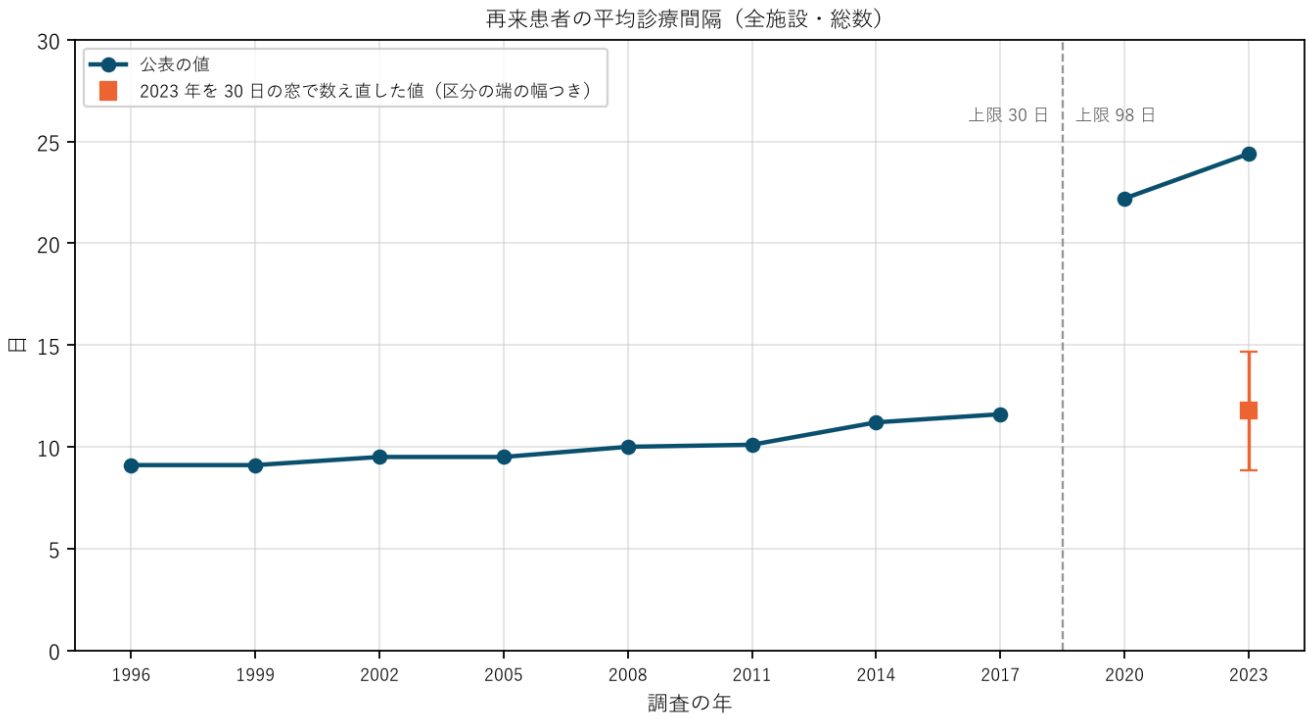


図1：再来患者の平均診療間隔（全施設・総数）。紺が公表の値、橙が 2023 年を 30 日の窓で数え直した値（線は区分の端で挟んだ幅）。破線が窓の変わり目。

---

5. 芯——2023 年を古い窓で数え直す

計算 5.1 2023 年の分布の数え直し（日）

	98 日の窓（数え直し）	公表の 2023 年	30 日の窓（数え直し）	区分の端の幅	公表の 2017 年	31 日以上の割合
総数	23.67	24.4	11.77	8.86〜14.68	11.6	0.319
病院	28.06	29.2	11.89	8.96〜14.82	12.4	0.382
一般診療所	22.95	23.5	12.06	9.17〜14.95	11.8	0.315

観察 5.2：区分の真ん中の日数による 98 日の窓の平均は公表値の 0.961〜0.977 で、少し低く出る（総数 23.67 対 24.4）。同じ近似で 2023 年を 30 日の窓で数えると 11.77 日で、区分の端で挟むと 8.86〜14.68 日。2017 年の公表値 11.6 日はこの幅の中にあり、30 日の窓どうしの 2023 ÷

2017 は 1.015 である。 窓を 28 日にすると 11.10 日、35 日にすると 13.55 日で、窓を 7 日動かすだけで平均も動く。

観察 5.3：2023 年の再来のうち 0.319 は 31 日以上の間隔で、古い窓では平均に入らなかった。新しい窓でも 99 日以上の 0.054 は入らない（どちらも不詳 122.2 千人を除いた割合）。

---

6. 章ごとの窓の分と窓の中の動き

計算 6.1 全施設・再来 15 千人以上の 15 の章

章	2017 年（公表）	2023 年（公表）	2023 年（30 日の窓）	窓の分	窓の中の動き	31 日以上の割合
眼	15.4	39.9	13.60	2.934	0.883	0.611
新生物	11.6	26.8	11.21	2.390	0.966	0.357
腎尿路生殖器系	7.1	20.2	8.49	2.380	1.196	0.270
皮膚	13.3	29.8	13.15	2.267	0.988	0.434
消化器系	10.9	23.9	11.30	2.115	1.037	0.297
内分泌･代謝	17.2	33.7	16.93	1.991	0.984	0.480
循環器系	17.4	31.7	16.94	1.871	0.974	0.436
筋骨格系	8.2	15.4	8.44	1.825	1.029	0.161
損傷･中毒	6.0	11.0	7.05	1.561	1.175	0.105

観察 6.2：並べる 15 の章すべてで、2017 年の値は 2023 年を 30 日の窓で数え直した幅の中にある。公表の 2023 ÷ 2017 を分けると、窓の分は 1.561〜2.934、窓の中の動きは 0.883〜1.196 で、窓の分の最小がどの章の窓の中の動きよりも大きい。 窓の中の動きが 1 より小さい章は 7、大きい章は 8 で、向きはそろわない。上の表は 15 の章のうち 9 つで、残りの 6 つ（血液・免疫・神経系・耳・呼吸器系・症状・異常所見・健康状態・保健サービス）も窓の分 1.713〜2.345 の中にある。

観察 6.3：窓の分がいちばん大きいのは眼（2.934・31 日以上の割合 0.611）、いちばん小さいのは損傷・中毒（1.561・0.105）である。 はじめ「2023 ÷ 2017 の大きさは 31 日以上の割合でほぼ決まる」と置いて落ちた——公表の 2023 ÷ 2017 と 31 日以上の割合の順位の相関は 0.271 で、2023 ÷ 2017 がいちばん大きいのは腎尿路生殖器系（2.845）だった。窓の分に絞っても、31 日以上の割合との順位の相関は 0.586 である。平均の計算の形から、窓の分は 31 日以上の割合だけでなく、その間隔が 98 日までのどこにあるかでも決まる。

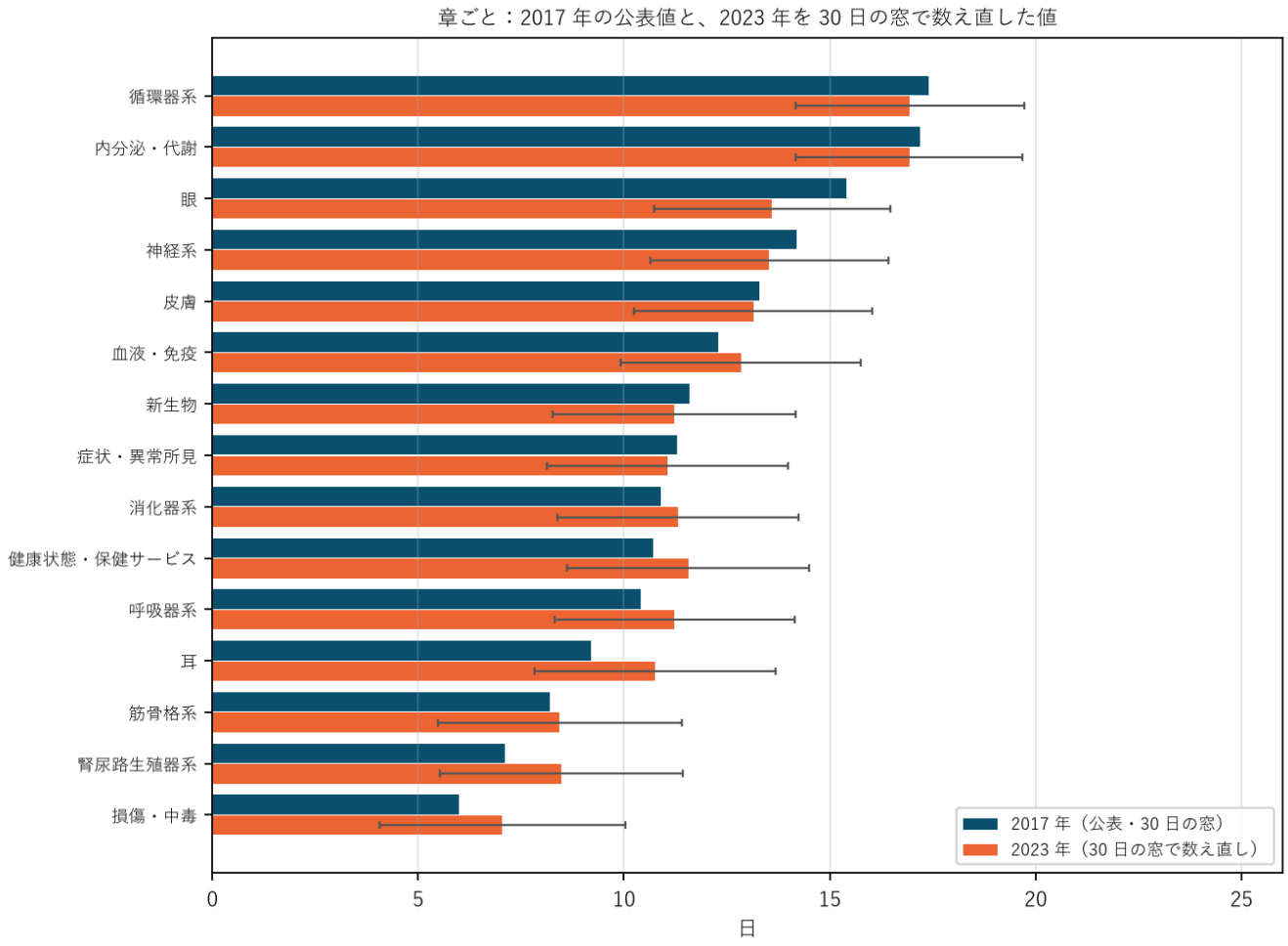


図2：章ごとの、2017 年の公表値（紺）と、2023 年を 30 日の窓で数え直した値（橙・線は区分の端で挟んだ幅）。

---

7. 限界

1. **数え直しは 7 日幅の区分の真ん中の日数による近似である。** 98 日の窓では公表値の 0.961〜0.977 と少し低く出た。30 日の窓の値は区分の端で挟んだ幅で読んだ。

2. 間隔日数の分布の表は 2023 年にしか無く、2017 年・2020 年は数え直せない。窓の中の動きは、公表の 2017 年と 2023 年の数え直しの比である。
3. 平均診療間隔は、調査日に来た再来患者の平均で、一人の患者が通う間隔の平均とは違う。調査日には、短い間隔で通う人ほど多く写る。
4. 窓の中の動きが何によるかは、この表では分けられない。1996 年から ICD-10 準拠で、2011 年は宮城県の一部と福島県を除く（表の注）。
5. 通院の間隔の良し悪し、処方や制度の評価には立ち入らない。

結び

再来患者の平均診療間隔は 2017 年の 11.6 日から 2020 年の 22.2 日へ 1.914 倍になったが、それは数える日数の上限が 30 日から 98 日に変わった回だった。2023 年の分布を古い 30 日の窓で数え直すと 11.77 日（8.86〜14.68 日）で、2017 年の 11.6 日と区別がつかない。15 の章すべてで、窓の分（1.561〜2.934）が窓の中の動き（0.883〜1.196）より大きかった。

分けているものは一つ——数える窓が変わったか、間隔そのものが伸びたか。

「通院の間隔が延びた」と聞いたら、**同じ窓で数えた話か、数える窓が広がった話かを、一緒に確かめる。**

データと再現

データ	患者調査 令和5年 全国編 第6表・第65表（厚生労働省・e-Stat）（2026 年 9 月 26 日に取得）
利用条件	e-Stat は政府標準利用規約（第2.0版）に従う。本稿の数え直しと比は、これを加工して作成したもので、国が作成した数ではない
範囲	日本・再来の外来患者・1996〜2023 年の 10 回（分布は 2023 年 10 月）
検算	`検算/M087.py`（`--zu` で図も書く）。本文の数字はすべて `検算/M087_output.txt` から取った
生データ	`data/` に取得したファイルと `SOURCES.md`（URL・取得日・SHA-256・利用条件・定義と計算の置き方）
図	`図/M087_zu1`・`図/M087_zu2`（png・svg・英語版）

参考文献

- 厚生労働省. 患者調査 令和5年 全国編 第6表・第65表. e-Stat（2026年9月26日に利用）. https://www.e-stat.go.jp/
- 山岸勇輝 (2026). 「平均在院日数」は、退院していく人たちの平均である [M009]. Zenodo. https://doi.org/10.5281/zenodo.22965052